

クラブ大会試合結果一覧

女子バスケットボール部

6月 第69回東海高等学校総合体育大会 第4位
8~11月 日清食品トップリーグ 第5位
12月 第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会 2回戦出場

男子バスケットボール部

令和4年度愛知県高等学校新人体育大会バスケットボール競技 西三河支部予選会 優勝
令和4年度愛知県高等学校新人体育大会バスケットボール競技 愛知県大会 第5位

陸上競技部

【10月 岐阜県】
第25回東海高等学校新人陸上競技選手権大会
2年 山田真央 (御幸山) 砲丸投1位
戸田源大 (東浦北部) 100m4位
鈴木きょうこ (知立) やり投5位・円盤投
坂田朋花 (平坂) 3000m6位
富山ダイム (一色) 三段跳7位・走高跳
酒井菜胡 (雁が音) 三段跳
市川彩乃 (知立) 三段跳
太田美晴 (六ツ美北) 3000m
1年 仙石華子 (篠目) 三段跳1位
火山華 (六ツ美) 3000m1位
上村玲大 (朝日) 走幅跳8位
磯貝洋聡 (福地) 走幅跳
杉浦颯志 (竜海) 110mH
木下みなみ (平坂) 砲丸投
女子4x100mR 7位
1年 橋本清愛 (刈谷東)・2年 青山和奏 (古知野)
2年 酒井菜胡 (雁が音)・2年 岡部百海 (大府)

【10月 愛媛県】
第53回U16日本陸上競技大会
1年 木下みなみ (平坂) 砲丸投7位

【10月 愛媛県】
第16回U18日本陸上競技大会
3年 村松優 (平坂) 走高跳
2年 山田真央 (御幸山) 砲丸投
2年 鈴木きょうこ (知立) やり投

【11月】
令和4年度愛知県高等学校駅伝競走大会 4位
3年 山下美智乃 (長良)
1年 火山華 (六ツ美)
2年 坂田朋花 (平坂)
3年 小山心結 (六ツ美北)
2年 太田美晴 (六ツ美北)

【11月 愛知県】
第33回東海高等学校駅伝競走大会 7位
3年 山下美智乃 (長良)
2年 田中小萩 (西尾)
1年 火山華 (六ツ美)
3年 小山心結 (六ツ美北)
2年 坂田朋花 (平坂)

卓球部

【11月岐阜県】
第62回東海卓球選手権大会
3年 中條 真央 (朝日丘)
2年 嶋崎 真琳 (高岡)・齋藤 のぞみ (幸田南部)
1年 新實 佳乃 (桜井)・北川 世菜 (矢作北)・坂本 一華 (大塚)
・杉山 こころ (明祥)

【12月岐阜県】
第50回全国高等学校選抜卓球大会東海選考会 兼 令和4年度東海高等学校新人卓球大会東海卓球大会
2年 中山 ひまり (松平)・齋藤 のぞみ (幸田南部)・嶋崎 真琳 (高岡)
1年 小田 沙奈 (吉良)・北川 世菜 (矢作北)・坂本 一華 (大塚)
・新實 佳乃 (桜井)・永見 優 (幅豆)・森下 由麻 (雨陽)

バレーボール部

第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会西三河支部予選会 第3位
第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会愛知県予選会 第3位
令和4年度西三河高等学校バレーボール選手権大会 ベスト8
令和4年度愛知県高等学校新人体育大会バレーボール競技
推薦校出場 (2月実施予定)
第46回全三河中学・高校東西対抗バレーボール大会 (高校の部)
出場 (2月実施予定)
令和4年度第28回東海私立高等学校男女バレーボール選手権大会
出場 (2月実施予定)

男子硬式テニス部

11月3日西三河テニス選手権大会本戦
リーグ戦出場 ミツコ毘沙門 菊池優斗
トーナメント戦出場 菊池優斗 ベスト8
団体総合3位

女子硬式テニス部

西三河テニス選手権大会 (団体)
2年 猫本明香・小栗麻緒ペア 本戦出場
2年 杉浦未来・1年 浅田美晴ペア 本戦出場

バドミントン部

第75回 中部日本バドミントン選手権大会
福井県福井運動公園体育館 (令和4年11月19~20日)
女子シングルス 2回戦 山脇 杏梨 (金屋)

ダンス部

令和4年度ダンスドリル秋季競技大会 東海大会
HIPHOP女子部門Large編成 第3位
USA Regionals2023 愛知大会
HIPHOP部門 第3位 全国決勝大会出場権獲得

男子サッカー部

令和4年度高等学校新人体育大会愛知県西三河予選敗退

女子サッカー部

第31回全国高等学校女子サッカー選手権愛知県大会 ベスト8
2022年度愛知県サッカー協会女子サッカーU18リーグ (県1部) 第3位
リーグ優秀選手選出 2年 岡本 伊予 (幅豆)
令和4年度愛知県高等学校新人体育大会 第3位

アーチェリー部

【11月】
令和4年度 愛知県高等学校新人体育大会アーチェリー競技 女子団体2位
2年 加藤七海 (安城北)・山中葉月 (朝日)・大島千佳 (安城南)
【1月】
第14回東海高等学校インドア・アーチェリー大会 兼 Winter Cup2023 第15回 高等学校ネットワークアーチェリーインドア大会
2年 加藤七海 (安城北)・山中葉月 (朝日)・大島千佳 (安城南)

吹奏楽部

第35回全日本マーチングコンテスト (大阪城ホール) 銅賞
2022年度アンサンブルコンテスト 西三河南支部大会 (知立市文化会館)
金管八重奏・打楽器八重奏・クラリネット八重奏 金賞・代表
フルート四重奏・サクソフォン四重奏・ホルン四重奏
・金管四重奏・木管七重奏・木管四重奏 金賞
金管三重奏 銀賞
2022年度アンサンブルコンテスト 県大会 (豊川市文化会館)
金管八重奏 愛知県教育委員会賞(1位)・県代表
打楽器八重奏・クラリネット八重奏 金賞
アンサンブルコンテスト東海大会 (三重県文化会館)
金管八重奏 朝日新聞社賞(1位)・東海代表 全国大会出場権獲得
2022年度中部日本個人重奏コンテスト 西三河南支部大会 (碧南市芸術文化ホール)
打楽器六重奏・クラリネット八重奏・酒井靖河(桜井) 金賞・代表
木管四重奏・小林咲季(岩津)・青木海侑(大高) 金賞
三好七摘(朝日) 銀賞

合唱部

第29回愛知県ヴォーカルアンサンブルコンテスト 銀賞

弦楽部

日本学校合奏コンクール グランドコンテスト 弦楽合奏 銅賞
日本学校合奏コンクール ソロ&アンサンブルコンテスト アンサンブル部門
弦楽アンサンブル 金賞 日本学校合奏コンクール委員会会長賞
日本学校合奏コンクール ソロ&アンサンブルコンテスト ソロ部門
ヴィオラ 銀賞 3年 杉浦姫菜 (城北)
日本学校合奏コンクール ソロ&アンサンブルコンテスト ソロ部門
コントラバス 銅賞 3年 久保遥菜 (矢作)

美術部

第37回 愛知県高文連 美術・工芸専門部 西三河支部展 出品

Ayagummo

Anjo Gakuen Highschool Newsletter

彩雲

2023
vol. 129
発行日 / 2月15日



卒業生への メッセージ



巻頭言

二度とない人生だから

坂村 真民

二度とない人生だから
一輪の花にも
無限の愛を
そそいでゆこう
一羽の鳥の声にも
無心の耳を
かたむけてゆこう

二度とない人生だから
まず一番身近な者たちに
できるだけのことをしよう
貧しいけれど
こころ豊かに接してゆこう

二度とない人生だから
のぼる日しむ日
まるい月かけてゆく月
四季それぞれの
星々の光にふれて
わがこころを
あらいきよめてゆこう

二度とない人生だから
戦争のない世の
実現に努力し
そういう詩を
一遍でも多く
作ってゆこう
わたしが死んだら
あとをついでくれる
若い人たちのために
この大願を
書きつづけてゆこう

二度とない人生だから
いっぺんでも多く
便りをしよう
返事は必ず
書くことにしよう

二度とない人生だから
めぐりあいの不思議を思い
足をとどめてみつめてゆこう

四大精神の実践を通して、『志』を持った人生を

みなさんは、小さいころから「あなたの夢はなんですか?」と聞かれたことが度々あったのではないのでしょうか。では「夢」とはなんのでしょうか。「夢」を辞書で調べると、一番目の意味として、「睡眠中に、あたかも現実の経験があるかのように感じる一連の概念や心象」、二番目に「現実からはなれた空想や楽しい考え」そして三番目に「将来実現させたいと思っている希望や理想」という意味が載っています。子供の頃、「あなたの夢は何ですか?」という質問は、三つ目の将来実現させたいと思っている希望や理想のことを指していると考えられます。しかし、この「夢」とは、達成できたらいいなという個人の願望であり、その実現に向けての具体的な計画のない、曖昧な想いの場合もあるように思います。

日本語にはこの「夢」という言葉に替わる奥深く素晴らしい言葉があります。その言葉は「志」です。

ソフトバンクの孫正義社長は「夢」と「志」について次のように語っています。「『夢』と『志』は違います。

『夢』は漠然とした個人の願望であり、『志』は個人の願望を超えて多くの人の夢を叶えようとする気概です。『夢』は心地よい願望ですが、『志』は厳しい未来への挑戦です。」

世界は今、自己の利益だけを追い求め、自己の主義主張を押し通すために他者を排除しようとする不寛容が広がっているように思えてなりません。ロシアのウクライナ侵攻がその顕著な例です。そして自分とは違う考えの人々や立場の違う人々に対する不寛容からくるトラブルは私たちの日常でも少なくないように思えます。

私はこの『志』という言葉に、安城学園の建学の精神に通じるものを感じるのです。『「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して家庭と社会に温かい心と新しい息吹を与える人間をめざす』という創立者寺部だい先生が百十年前に掲げた建学の精神は、このような時代だからこそなおさらその意義が高まっているのではないのでしょうか。そして、時代や社会が求めている精神なのではないのでしょうか。

個人の願望を超え、社会や他者に対して思いを馳せ、利他の精神を持って行動する。みなさんにはそんな人生を歩んで欲しいと思います。

安城学園高等学校
学校長代理
佐藤 順



卒業生へのメッセージ

安城学園高校で一緒に学んだ仲間が、 きっと皆さんを助けてくれる。



3年学年主任 竹内 徹

卒業生のみなさん、保護者のみなさま、ご卒業おめでとうございます。

3年前、どんな気持ちで入学式を迎えたでしょうか。新しい生活へのわくわく感、友達が出来るかどうかの不安、待ち望んでいた部活動での活躍など、様々な気持ちが膨らんで臨んだ入学式と始業式。その翌日からの突然の休校でした。送られてきた課題を自宅で言い、いつ学校が再開されるかわからない日々は、つまらなく、そして不安だったことでしょう。新しい生活への気持ちが随分萎えてしまったのではないのでしょうか。

6月に学校生活が始まりましたが、時間短縮や音楽や体育の実技も出来ない状況でした。授業を行うことが再優先で、先輩達が用意していた「新入生がお互いに仲良くなれるしかけ」である歓迎会やフレッシュマンキャンプ、体育祭なども中止になりました。日常生活でも、マスクでお互いの表情が見にくく、昼食も黙食でおしゃべりもできない状態では、友達を作るのにとっても苦労したのではないかと思います。

短い夏休みの後、学園祭の準備が始まりました。ワイワイ言いながら、楽しくみんなで作業している姿がとても印象的で、皆こういうのを待ち望んでいた、という気持ちが伝わってきました。学園祭以上に印象的だったのが、代表者会が中心となって準備をした12月末の学年レク。その場にいた全員が司会に集中したり、場を盛り上げたり、レクを成功させようと気持ちが一つになっていた光景に感動しました。

何気ない日常の大切さは、失ってはじめて気づきます。制約が多く我慢を強いられていた日常だったからこそ、仲間と何かを作りあげていく楽しさや、自分で考えて皆の役に立っていく嬉しさを、より強く実感することができたと思います。

2年3年と学年が上がり、それぞれ部活動や行事の中心

を担うようになったときにも、この「皆で活動することを大切に
する気持ち」が生きていたはず。君たちはコロナ禍によって縮小か途絶えてもおかしくない状況の活動を受け継ぎ、部活動では結果を残し後輩につなげ、自主活動ではひまわりプロジェクトやウクライナのいまを知る会をはじめ学内外に誇れる活動を残してきました。自分たちの進路決定では、自分たちの適性をよく理解して、より高いレベルにチャレンジした人も多く、県内外の難関校に例年以上の合格実績を残しました。君たちはよく頑張り結果を残しました。

君たちは高校生活の最初からのコロナ禍にあったからこそ、状況を柔軟に受け入れ、どの世代よりも早く、新しい日常として新しい自分たちの生活をつくりあげた、これは今後君たちの大きな財産になるはず。

世の中のしくみや価値観は、この3年間の間に大きく変化しました。リモートワークなどの多様な働き方やデジタル化、SDGsが提示する誰一人取り残されない社会作りなどは、急速に社会に浸透しました。

君たちには自分たちの手で新しい世界を作っていくチャンスが到来しています。歴史上、常に無数の名もなき若者が、新しい社会を創ってきました。もちろん不安にはあるでしょう。でも大丈夫。「誰でも無限の可能性がある」として自分で考えチャレンジすることを大切にしてきた安城学園での学びや、取り組み、行事で身につけたことが、一緒に学んだ仲間が、きっと皆さんを助けてくれます。

今日で、みなさんはそれぞれの新しい道に向かって歩むこととなります。挫折や回り道もあるでしょう。自分を信じて、何処かで頑張っている同級生達を励みにして、自分の未来を、新しい世界を創って行って下さい。私たち教職員は何時でも皆さんを応援しています。

ANJO GAKUEN
響き合う
まちと学校

「命を学ぶプロジェクト」
生徒会東北訪問

吹奏楽部 吹奏楽フェスティバル 2022年12月18日 パティオ池鯉鮒かきつばたホール



吹奏楽フェスティバルに参加して

3年11組 藤田 ひなり(桜井)

12月18日に行われた吹奏楽フェスティバルに参加させていただきました。前日にマーチングのテレビ生中継があり、練習の両立をすることはとても大変ではありましたが、切り替えて行うことができました。本番では緊張感はありませんでしたが、自分達らしい演奏をお届けすることが出来ました。たくさんの高校生の演奏をお互いに聴き合い、刺激を受ける良い機会になりました。

合唱部 第18回定期演奏会 2022年12月24日
岡崎市シビックセンター
コンサートホール コロネット

定期演奏会を開催して

2年12組 市山 柚希(東山)

今回の定期演奏会は、ダンスをしながら歌う曲を多く取り入れ、来てくださるお客さんに楽しんでもらえるよう、工夫をしました。披露した曲の中には、お客さんに簡単な振付を覚えてもらい、座席でダンスに参加してもらうという演出がありました。その時に、客席の皆さんと一緒に踊ってくれているのを見て、会場が一体となって曲を完成させることができたことがとても印象に残っています。今年度は、定期演奏会までの準備期間が例年より短かったのですが、部員一人ひとりが練習を大切に、責任を持って定演を作り上げることで開催することができました。これからも聞いてくださる方々に素敵な合唱が届けられるよう、部員全員で成長していきます。



弦楽部 第29回定期演奏会 2023年2月4日 岡崎市民会館あおいホール



1年の集大成を私たちに

3年9組 久保 遥菜(矢作)

今年度は定期演奏会の練習が年明けから本格的に始まり、例年より短い練習期間の中でしたが、コンクールで演奏したルーマニア民俗舞曲を中心に、聴いてくださる方々に楽しんでいただけるようなクラシック曲やポップス曲を選曲し、この1年の成果、3年間の集大成として部員42名で私たちに精一杯演奏しました。3年生はこの演奏会をもって引退となりましたが今後とも弦楽部へのご支援、ご協力をお願いします。

生徒会主任 山盛 洋介

12月15日(木)～17日(土)、安城学園「命を学ぶプロジェクト」の一環として、今年も東北の地を生徒6名・教員2名で訪れることができました。本学園との包括連携協定を締結した岩手県大船渡市では、洲上清市長自ら迎えてくださり、懇談させていただいたほか、震災の年、安城からの七夕まつり支援で出会って以来、つながり続けている盛町灯ろう七夕実行委員会のみなさんとも再会することができ、「来年はぜひ一緒にやろう」と約束を交わすことができました。コロナ禍で祭り自体も中止が続き、本校からのボランティアも実施できない状況が続いてきましたが、2023年は祭りを実施する計画でいるとのこと。その際には、本校からもボランティアとして伺おうと考えています。

また、福島では、原発事故の影響が今なお続き、未だ先行きの不透明な状況を目の当たりにしました。帰還困難区域が解除され、住民の帰還が始まった双葉町では、町づくりに向けた展望と同時に、困難さも抱えている現状をお聞きしました。また、除染土の中間貯蔵の状況を目の当たりにするなかで、これからも長い期間にわたるであろう復興への険しい道程を思い知りました。一方で、復興を信じて各地で奮闘する方々とも出会うなかで、生徒たちは、福島の「光と影」を学んだ旅となりました。

震災から12年近くが経過し、現地の若い世代も含め、今の高校生たちは、リアルな記憶のない世代になりつつあります。だからこそ「過去を知り、現実を学び、未来を考えること」が極めて重要です。これまでつながり続けてきた皆さんや、新たに出会った皆さんとの「ご縁」を大切に、これからも東北を思い、アクションを起こしていこうと考えています。



想像できないほど苦しい時を
過ごしてきた現実

2年 中元 颯南(安祥)

今回3日間東北を訪問して、地震・津波・原発の恐怖を改めて再確認できた旅でした。中でも特に印象に残っていることが2つありました。まず「津波てんでんこ」という言葉です。元々その言葉は知ってたけど、どういう意味かは全く分かりませんでした。津波てんでんこは大船渡の言葉で「津波が起きたら家族と一緒にいなくても気にせず、てんでんばらばらに高台に逃げ、まずは自分の命を守れ」という意味があるということ。2つ目は、皆が逃げていることを信じ自分も逃げるということです。津波が来て家族や友達が逃げているか分からず不安でも、来た道に戻らず皆を信じ自分も逃げるということを知りました。双葉町は今年8月31日に帰還困難区域が解除されたばかりでしたが、建物は当時のまま残っていました。最終日のピクルス作り体験では、農家さんから「震災後、野菜を作っても処分しなくてはならない現実。子どもを捨てる感覚と同じだった」と聞き、私達では想像もできないほど辛く苦しい時間を過ごしてきたんだと思いました。

表面上しか知らなかったことを
学んだ東北訪問

1年 平岩 真琴(矢作)

私は、テレビなどを見て、てっきり福島や震災にあった他の県は、ある程度、元の姿に戻っていると思っていましたが、建物も倒壊したままだったり帰還困難区域であるために家も新しく建てられず更地だったり、双葉町のように元の姿に戻すのではなく、新しく双葉町をつくっていくように震災から11年経っているのに、復興が思っていたよりも進んでおらず、「光と影」があることを知りました。今回の東北訪問で、今まで表面上しか知らなかった東日本大震災による被害を知り、この事から現在までどんな活動をして少しずつ復興をしていっているのかを実際に震災を経験した方たちの話や現地を自分の目で見て学ぶことが出来ました。3日間だけでは完璧に全てを学ぶことは出来ないけど、今回学んだことを頭に入れておくのではなく、身近な人や安学の皆に伝えたいと思いました。とても素敵な時間を沢山過ごせた東北訪問をさせて頂きありがとうございました。

生徒会活動報告

後期生徒会メンバー紹介



後期生徒会方針は「キセキ」です。「安城学園の全校生徒が出会った『奇跡』に感謝し、みんなで学校をつくろう」「110年間、安城学園が刻んできた『軌跡』を、未来につないでいこう」「ひとりひとりが『輝石』。お互いに磨き合い、みんなを輝かせる学校を、生徒会活動を」という思いをもって活動しています。6つの常任委員会の活動や、創作ミュージカル実行委員会の支援、2月の卒業フェスティバルや4月の新入生歓迎会の運営、他校との活動交流などを通して、生徒ひとりひとりが主人公になれる学校づくりをめざしています。

| | | | | | | | |
|-----|----|-------|-------|----|----|-------|-------|
| 会長 | 2年 | 加藤由紀恵 | (安城西) | 会計 | 1年 | 小寺美空 | (安城西) |
| 副会長 | 2年 | 鈴木萌々佳 | (六ツ美) | 会計 | 1年 | 松田瞬也 | (桜井) |
| 書記 | 2年 | 大熊来実 | (知立) | 渉外 | 1年 | 小玉莉都己 | (大府) |
| 書記 | 2年 | 渡辺心美 | (新川) | 渉外 | 1年 | 前田哩伽 | (富士松) |

教科セミナー報告

日本史セミナーの思い出

1年6組 久野里奈(東山)

私はもともと日本史が好きだったので、今回セミナーに参加できてとても嬉しかったです。特によかったのは、比叡山のほうらい丘で大量のお地藏様です。織田信長の比叡山焼き討ちで犠牲になった人びとを弔うものだと聞きましたが、当時のものを今こうして自分の目で見る事ができてとてもいい経験になりました。他の行先でも素敵な経験ができて楽しかったです。



日本史セミナー

新しい学びのアプローチ

2年4組 遠山颯希(六ツ美北)

ノスタルジックな街並みを散策したり、博物館を見学したりと、普段と全く異なる環境で歴史に触れることができました。興味を持ったことを実際に体験するという事は、座学とはまた違った楽しさがあり、私にとって学びへのアプローチ方法の一つとなりました。



学校行事

球技大会

大会成績

【男子】優勝:3年10組/準優勝:3年9組/3位:3年7組、3年8組
【女子】優勝:2年8組/準優勝:3年9組/3位:3年1組、商3年2組

男子 優勝クラス
このクラスは最高!
3年10組 藤井 駿希(平坂)

僕たちは練習で負けたことがなかったため前評判が高く絶対に勝たないといけないという気持ちがありとても緊張していました。しかし、クラスの応援が大きな力になり、緊張よりも楽しさがでてきて「早く試合がしたい」「もっと試合がしたい」と思うようになってきました。試合中も笑顔が増え、自分に自信を持ってプレーすることができました。

僕は決勝で最後の1点が決まった時、無意識にガッツポーズをしてしまうほど嬉しかったです。そして試合が終わった瞬間クラスのみんなと集まり喜んでる輪に入りながら本当にこのクラスは最高だと思いました。

僕はこのクラスで前期後期とも級長をやり高校生最後の年なので思い出に残るクラスにしたいと思い、仲の良い団結力のあるクラスを目指しレクなどでコミュニケーションをとることを大切にしてきました。その成果もあり球技大会では男



女共に応援をし、一致団結して優勝することができました。

女子 優勝クラス
最高の思い出をありがとう!
2年8組 佐橋 愛乃音(有松)



球技大会が終わりました!担任の増永先生の初優勝を目指し、体育の授業ではできない子にバレー部の子が優しくサーブを教えてくれたり、みんなが真剣にやり続け少しずつサーブが入るようになってたり、クラス一丸となってみんな気合い満タンでした!

迎えた当日、緊張する中始まった球技大会。女子の得点が入る度、女子より喜ぶ男子の姿、ミスをしなくてもみんなで駆け寄る姿がたくさんあって本当に嬉しかったし、楽しかったです。みんなで何度も円陣をくんだことや喜びがあったこと、そして何よりみんなで笑って優勝を掴めたこと。この先忘れない思い出になりました。8組のみんな、最高の思い出をありがとう!!!!

弁論大会

最優秀賞

2年10組 富永 翔菜(碧南南)
「空白の十年間」

優秀賞

商2年3組 鈴木 きょうこ(知立)
「覚悟」

優秀賞

2年13組 渡辺 心美(新川)
「社会問題!?!」

特別賞

2年6組 宮地 琴菜(若園)
「大切な場所」

言葉は人の心を動かす

2年10組 富永 翔菜(碧南南)

自分の経験や思いが相手の心にどうしたら刺さるか。実際に自分の事を言葉で理解してもらうことは簡単ではなく、勇気のいるものでした。みんなから「感動した。思わず泣いてしまった」「伝える力があると思う」と言われ、人の心を動かすことができる力が自分にあると気づかされるいい機会になりました。他の人も自分にはない悩みを抱えていて、すごく心に響く内容ばかりでした。自分、そして他人と見つめ合えるいいきっかけになりました。



針供養

人や道具に感謝

2年12組 角 栄和(桜井)

僕の祖母は趣味で手芸をしています。小学校の自由研究では一緒に裁縫をしたこともあり、その頃から裁縫は嫌いではありませんでした。高校2年生になり、家庭総合の時間にエプロンを作りました。実習は楽しくスムーズに作業が進んでいき、他の子よりも早くエプロンを仕上げることができました。クラスには困っている友達がたくさんいたので、教えてあげることができ、被服実習で人との繋がりができました。実習の最中に、「先生、針が折れた!」、「針が曲がった!」などの声があがっていましたが、全員無事にエプロンを作ることができました。このように人との繋がりができたり、エプロンが完成できたのは針という道具のおかげなので、当日は折れた針に感謝の気持ちを込めて供養しました。また、先輩のドレスなどを見ることもでき、自分には作れないと思うようなクオリティーの高い作品はとても美しく輝いて見えました。今回針供養に参加してとても貴重な体験をすることができました。今後も人との繋がりが道具への感謝の気持ちを持ち続けながら生活していきたいです。



エプロン作り、針供養を終えて

商2年2組 山田 陽士(刈谷東)

僕は中学生の時から裁縫が苦手でした。不器用で作るのが遅かったため、裁縫があまり好きではありませんでした。家庭総合でエプロンを作ると聞き、キレイに作れるかと不安な気持ちになりました。しかし、実際に作ってみると先生からキレイに縫えているねと褒めて頂き、分からない部分は先生や友達が丁寧に教えてくれました。エプロン作りはクラスの人達と仲良くなるきっかけを与えてくれました。針は小さいのですが、皆が仲良くなるきっかけを作ってくれたので、その存在はとても大きく感じました。針を折ったり、曲げてしまうことがありましたが、全員無事にエプロンを作り上げることが出来ました。エプロンや仲良くなるきっかけを作ってくれた針にはとても感謝しています。その感謝の気持ちを込めて針を供養しました。これからも周りの人達や物に感謝して生活していきたいです。

第35次創作ミュージカル

4月の一般公演の際は、是非お越しください

第35次 創作ミュージカル実行委員長
兼松 朱音(安城西)

第35次創作ミュージカル「Forest ALIVE～届け、森の歌～」は、国境の森が舞台です。森につどう若者たちのつながりが、ある日突然「分断」され、「当たり前の日常」を奪われます。その中で、他者を思う気持ちや、理不尽なことに抵抗し、立ち上がっていく若者たちの姿を通して、共感を広げることの大切さを考える物語です。2月の卒業フェスティバルでの公演は、3年ぶりの開催。縦7m×横13mの大きな布に舞台背景を描き込む書き割り作成作業も無事に終え、作業や練習が急ピッチで進んでいます。4月の新入生歓迎会と一般公演に向けて、スタッフ・キャスト一同、心をひとつにして活動しています。4月の一般公演の際は、是非お越しください。お待ちしております!



■一般公演 4/16(日)9:00開場 9:30開演 安城市民会館サルビアホール

2022年度 創作活動発表会



コーラス

3年1組 内菌 奉子(知立)

1年を通してたくさんの楽曲に触れることができました。「もう1年たったの!?!」と思うほど毎回楽しく、元から好きだった歌をもっと好きになることができました。J-POPから洋楽まで、英語コースだからできることや、この3人だからできるハモリなど、とても楽しい経験になりました。楽しい曲の時はみんなで手拍子したり拍手したりと、このメンバーで歌って、発表できてとても良かったです!

弦楽演奏

3年1組 日置 真結(安祥)

バイオリンを触るのはこれが初めてで、最初は音を出すことすら難しく、一年間でどれくらい弾けるようになるか不安でした。周りを見れば真似で色々やっていたうちに、だんだんと音も出せるようになってきて楽しくなりました。今後大人になって時間に余裕ができた時に、趣味としてバイオリンをやりたいなと思いました。そしてまた違う楽器にも触れてみたいと思いました。

美術陶芸

3年2組 長谷川 瑠菜(依佐美)

私は不器用で最初はコツがつかめず、そこまでうまく作れなかったけど、作っていくうちに段々うまく作れるようになったので良かったです、すごく楽しかったです。マイクを使つての発表は緊張したけど、ちゃんと説明できたので良かったです。自分でものを一から作っていくことはとても大変なことだと思ったので、ものを大切にしたいと思いました。

油彩

3年8組 大谷 明璃(朝日)

初めて油彩を体験しましたが、先生にご協力いただき、描き切ることができました。桜や金魚、舞妓さんと描きたいものを思いきり描くことができてすごく楽しかったです。色々な技法も学ぶことができました。今後、なかなか油絵の具に触れる機会がないかもしれませんが、長い時間を通して1つの作品に向き合っていく面白さを知ったので、また新たな絵に挑戦したいです。

フューチャーセッション

3年12組 本田 葵(篠目)

1年間を通して、友達と協力して企画を考えていく中で、協調性や意見を発信する力がつきました。最初は自分たちが描きたい未来が曖昧だったけど、回数を重ねていくうちに未来がはっきりしてやっていると楽しくなりました。今後、このフューチャーセッションでの経験を活かして、人と協力したり、自分の意見をはっきりと伝えたりしていき、社会で活用できるようにしたいです。

創作ダンス

3年11組 澤木 陽愛(竜北)

ダンス歴が0だった私ですが、練習を積み重ねることで振り覚えるのが早くなりました。リハーサルの際はドキドキしていたけど、舞台上立った瞬間笑顔になれ、間違えることなく踊れたのが印象に残っています。周りについていけなくて家でも練習して、あきらめない気持ちを身につけることができました。今後は何に対してもあきらめずにやりとげようと思いました。

自然と科学

商3年2組 岩崎 聖奈(明祥)

他クラスの子と一緒に協力して実験をしたり、科学の特性を使って調理して食べ物を作ることができました。毎回役割分担をして効率よく進めるように意識して考えながら取り組みました。日常生活の中で科学というもののはたかさん活用されていることが分かったので何か調理をするときなどに役立てたいです。1年間の学びをムダにせず、今後も生かして過ごしたいです。

茶菓

3年8組 野々山 知里(富士松)

お茶の発表では、お手前の役をやっても緊張しましたが、お茶を飲む人のことを考えてお茶の濃さを変えたりするなどの工夫をしました。生け花では、空間や遠近を考えてどうしたら自分らしい作品ができるかなどを表現しながら工夫して生けました。生花で得た感性とお茶で学んだ礼儀をこれからの社会でも生かし、人に失礼のないような態度を心がけていきます。

Webページ制作

商3年1組 角谷 芽衣(有松)

初めて使うHTMLで作っていくことかできてとても楽しかったです。ページを移動させるのに時間がかかってしまったのと、もう少し自分が書いた文章の説明や魅力の紹介もできたらよかったと思うけど、最終的に自分の思い通りのページを作成して発表することができたのでよかったです。これからももう少しクオリティを上げたウェブページを作りたいし、事務の仕事に生かしたいです。

幼児と体育・遊戯

3年4組 市川 楓夏(矢作北)

私は将来子どもに関わる仕事につきたい、社会に出た時に役立つ経験や知識を向上させたいと思い、この講座を選びました。絵本づくりでは、子どもたちに親しみがある風船を主役にしたストーリーを作成し、創作ダンスでは、子どもたちに運動能力が楽しくつけられるように意識しました。本番では、子どもたちがいるつもりで元よく笑顔で1つ1つの動作を大きくして踊ることができました。



国際交流

留学生報告

ホームステイ留学「バンクーバー」について

国際交流主任 国分 渉悟



ホームステイ語学研修は、2013年度を最後に実施できていませんでした。2017-2019年度はセブ島のマンツーマン形式の語学研修に切り替え、3年間実施をすることができました。しかし、コロナの影響で2020-2021年度は実施できず、今年度は実に3年ぶり(ホームステイに関しては約10年ぶり)の海外研修の実施となりました。大きなトラブルなく、無事にプログラムを終えることができ、一安心しました。

私が個人的に強く感じたことは英語の多様性です。学校の先生にはヨーロッパの方もいて、独特のなまりがありました。ホームステイ先はアジア系の方が中心で、ブロークンな英語でした。だからこそ、生徒たちには「正しい英語」よりも「伝わる英語」が大事なのだと伝えることができたように思います。バンクーバーが住みやすい街の上位にいつも位置しているのは、このような

多様性が共存する社会だからだと思います。留学生に好まれるのもこの理由が大きいのと感じました。

短期留学を計画して良かったと思った瞬間は、帰りのバンクーバー空港で、涙する生徒や帰りたくないと言っている生徒が次々とあらわれたときでした。そして、セントレアに到着し、各生徒が保護者と再会した際、笑顔で去っていく姿にも喜びを感じました。国際理解を目的としながらも、自立心や親への感謝の気持ちにも気づくことができることがいいところだと思います。

ホームステイ留学に参加して 1年1組 神谷 茜依(東山)

学校の授業では毎日、英会話を練習してきました。今回のホームステイ留学は今まで勉強してきたことを活かす良い機会になりました。とはいうものの、朝起きてから寝るまで英語を使って過ごす必要があるため、最初の1週間は戸惑いも多くありました。しかし2週目になると次第に慣れてきて、最終的には非常に楽しい時間を過ごすことができるようになりました。この一年は、オンライン英会話やオンライン留学、英検やTOEICの検定試験の勉強などたくさん挑戦してきました。今まで勉強を頑張ってきたよかったと思えた2週間となりました。



英検合格者

2022年度 第1回と第2回英検の結果報告

(合格者数/受験者数)

| 第1回 | | 第2回 | |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 英検 1級 | (2/4名 合格) | 英検 1級 | (1/4名 合格) |
| 準1級 | ... (10/19名 合格) | 準1級 | (3/6名 合格) |
| 2級 | ... (10/42名 合格) | 2級 | ... (15/33名 合格) |
| 準2級 | ... (30/63名 合格) | 準2級 | ... (15/34名 合格) |
| 3級 | ... (40/58名 合格) | 3級 | ... (11/16名 合格) |

安城学園高校のこだわり



毎年、英検の上位級(準1級や1級)の合格者が増えてきています。本校英語科教員の指導経験が増えてきていることもその理由の一つですが、上位級合格者増の一番の要因は生徒同士が切磋琢磨する土壌ができてきていることだと考えられます。2級に受かった生徒は、先輩や同学年の生徒に触発されて、準1級へ挑戦します。生徒たちは現状に満足することなく、次へ次へと学習を発展していけるようになってきています。来年度以降も楽しみで仕方ありません。

部活動 Report

2022年10月~2023年2月

陸上競技部

安城学園陸上部で良かった

3年12組 山下 美智乃(長良)



私は1、2年生の時には全国駅伝は補欠で走ることが出来ませんでした。3年生となり愛知県高校駅伝でエース区間の花の1区を任せていただきました。大きなプレッシャーもあり、1位で襷リレーとはなりませんでした。区間3位でいい経験が出来ました。

普段からチームの一人一人に声をかけて、自分から練習しやすい環境を作ることを意識し、陸上を楽しんでやることを大切にしてきました。高校の3年間、安城学園の陸上部を選んで良かったと感じています。ありがとうございました。後輩たちに来年の都大路をたくします。

U16全国大会で自己ベスト入賞

1年4組 木下 みなみ(平坂)

10月に行われたU16全国大会で砲丸投7位入賞できました。全国経験のない私が、高校に入学して全国を目指し、7ヶ月間、全国大会を意識して行動し、試合を想定した投げや練習を積み重ね、全国大会本番では自己ベストを投げ入賞することが出来ました。この日は母の誕生日だったので素敵なプレゼントができた母の喜んだ顔が私も嬉しかったです。顧問の先生のご指導や、切磋琢磨できる先輩や仲間のおかげと感謝しています。この経験を生かし今後もインターハイやU18全国大会で活躍できるように努力していきます。



インターハイ優勝、国体出場を目指して

2年6組 山田 真央(御幸山)



昨シーズンは東海新人という大きな舞台で優勝させていただくことが出来ました。今までの陸上生活の中で初めて東海大会で優勝することができ、とても嬉しく思います。ですが東海大会で喜んでいてはインターハイで優勝することが出来ないのここで満足せずもっと高みを目指していきます。来シーズンでは私の高校1年生からの目標であるインターハイ優勝、国民体育大会への出場を目指してこれからも練習に励んでいきます。そして今までお世話になった方々に感謝を伝えられるような投げをします。

限界に挑戦し得られたもの

1年10組 火山 華(六ツ美)

10月の東海新人大会は3000mで優勝することができましたが、タイムとしてはあまり満足はいかないものとなりました。来年はもっと挑戦するような走りがしたいと思いい月の市町村対抗駅伝に臨みました。結果は個人では4区間賞、岡崎市では優勝することができました。この結果は自分の限界に挑戦することができたから得られたものだと思います。今後どんどん挑戦する走りをしていきたいです。応援ありがとうございました。



ダンス部

3年ぶりの合同自主公演

2年6組 杉山 陽菜(前林)

1月に愛知県の高校18校のダンス部が集まり、合同自主公演に参加しました。昨年までは、映像での参加でしたが、今年は3年ぶりに安城市民会館に集まり開催することができました。

初めて1、2年生60人全員で踊る作品をつくり、いつも以上にそろえることが大変でした。しかし本番は、練習の成果を出し切り、楽しんで踊ることができました。他の学校のダンスも見ることができて、構成や表情の変化、体の使い方など、たくさん学ぶことができました。



次は3月の全国大会や夏の大会に向けて、より高みを目指し、全員で気持ちを一つに頑張ります。これからもダンス部の応援よろしくお祈りします。

USA Regionals 2023 愛知大会で
全国大会出場を獲得

2年12組 横山 凜花(蒲郡中部)

12月に参加したUSA Regionals 2023愛知大会で全国大会への出場権を獲得しました。この大会に向けて、何度も話し合い、自分に限界をつくらず、たくさん練習をしてきました。本番では、一人ひとりが自信をもち、今まで練習してきた成果をすべて出し切り、楽しんで踊ることができました。みんなで目標にしていた全国大会出場を叶えることができ、とても嬉しいです。



全国大会入賞を目指して予選よりもレベルをあげ、今よりもっと良い作品ができるよう、仲間と支え合い頑張っていきます。これからもダンス部の応援よろしくお祈りします。

女子バスケットボール部

高校での経験を活かし
次のステージへ

3年8組 高木 すず(翔凛)

昨年、一昨年とベスト8という結果から、今年こそは日本一になるという強い意志を持って一年間取り組んできました。結果は2回戦目で負けてしまい、悔しい敗戦となりました。ですが、1年を振り返ってみると新体制になり、選手同士、監督とのコミュニケーションが増え、U18日清食品リーグバスケットボール競技大会やその他の沢山の試合経験を重ねて、確実にチームとしてレベルアップしていることを実感しました。バスケットを楽しみ、笑顔で試合をすることが出来て最高の思い出となりました。今まで沢山の応援本当にありがとうございました。3年生はこの経験を活かし、次のステージでも目標を持ち取り組んでいきます。1、2年生はもう一度日本一を目指し、日々練習に励んでいくので引き続き女子バスケットボール部の応援をよろしくお祈り致します。



男子バスケットボール部

濃い3年間

3年9組 小川 莉生(立栄)



僕たちは入学してから自粛期間で約2ヶ月の間、部活ができない状況でした。自粛が明けても時間の制限や接触をできるだけ避け、声出しも禁止の状況で部活を満足にすることができませんでした。それでも全国大会出場を目標に、練習時間が短い中でも努力を積み重ねてきました。僕たちは身長も無ければ、実力も大したものではなかったけれど、インターハイ予選とウィンターカップ予選では3位入賞、東海大会出場という結果を残すことができました。これまで3年間一緒に戦ってくれた3年生や、苦しい時に支えてくれた1、2年生には感謝しかありません。後輩たちには安城学園の伝統を引き継ぎ、僕たちが叶えることのできなかつた全国大会出場の夢を叶えて欲しいです。最後に、3年間毎日朝早くから遅くまでバスケットボール中心の生活を支えてくれた保護者の方々には、これからの人生を懸けて恩返ししていきたいです。ありがとうございました。

インターアクト
ボランティア部

JR安城駅構内の四季折々の
デコレーション制作活動を通して

2年2組 唐鎌 咲月(高浜南)



JR安城駅構内に置かれているぬいぐるみに季節や行事に合った衣装を作ったり、その周囲を飾りつけたりする活動を行ってちょうど1年が経ちました。通勤通学の方々に楽しんで頂くため、部活内でデザインの話合いを重ね、華やかな飾りつけになるよう部員全員で協力して作りあげてきました。最初は、上手くできるか不安でしたが、駅利用者の方々に「きれいだね」、「楽しみにしています」などの誉め言葉を頂き、やりがいを感じました。これまでに14回模様替えをしてきました。これからも、このデコレーション活動と土日のお祭りイベントや募金活動への参加だけでなく、地域の方々の癒しとなるような活動を見つけていきたいです。

学び探究部

安城市歴史博物館の
イベントにコラボ

学び探究部顧問 北林 晃

安城市歴史博物館で11/26～1/15に行われた企画展「勉強っておもしろい?」に関連したイベントに協力参加しました。企画展のテーマである「勉強」に関して、来場者の目を引くようなブースを提供するため、部員たちが一から内容を考えました。江戸時代にあった算額(和算の問題を記した絵馬を神社に奉納されたもの)をヒントに、他者の投稿に再投稿してコミュニケーションを取る現代のSNSの要素を加え、「絵馬書きたくない! #歴史博物館で合格祈願」というイベントを実現しました。

実際に訪れた来場者を楽しませることができ、満足感を得ながら企画をつくり上げる経験をすることができました。これからも、地域社会と連携し、答えのないテーマに取り組む新しい学びに挑戦していきたいと思えます。



東海大会に出場

2年1組 嶋崎 真琳(高岡)



卓球部は10月から行われた新人戦予選を西三河大会優勝、県大会4位という成績で勝ち抜き、12月23日～25日に岐阜メモリアルセンターで行われた東海大会に出場することができました。結果は予選リーグで3位という成績で、決勝トーナメントに進むことは出来ませんでした。東海選抜では、悔しい結果になってしまいましたが、私たち2年生の最後の大会であるインターハイ予選に向けて、さらに自分たちに厳しく、日々の練習に励んでいきます。これからも卓球部の応援よろしくお祈りします。

命を学ぶプロジェクトに参加
避難して終わりではない、命は守り続ける、...

1年8組 近藤 有真(吉良)

男子サッカー部は命を学ぶプロジェクトに参加しました。印象に残ったことは、『助かったとしてもそこからどう生き続けるか』ということです。避難訓練で逃げるルートを知って災害が起こった時に素早く移動できるようにするということが避難訓練をすることだと思っていました。しかし、それだけではなく逃げることもできたとして、その後で命を落としてしまったら逃げた意味がないことに気付かされました。自然は容赦なく人間に牙を剥きます。守った命は守り続けなければいけないことを学びました。また、当たり前や平和というのが、とても大切なものということに改めて気付かされました。僕はこの平和な日常が当たり前が続いていくと思っていましたが、地震や津波だけではなく戦争でも簡単に消えていきます。だからこそ今の当たり前や平和を大事に思わなければいけないと感じました。

僕は、今というこの瞬間を大事にしていきたいと思えます。また、もし災害が起きた時には逃げるだけでなく、その後で命を落とさないような動きをするということをみんなに知って欲しいと思えました。

男子サッカー一部



女子サッカー部

令和4年度県新人体育大会 第3位



2年10組 岡本 伊予(幡豆)

3年振りに開催された愛知県新人戦で第3位となりました。10月に3年生が引退しおよそ3ヶ月後、新人戦3回戦が始まりました。初戦は岡崎商業。新チーム初の公式戦は圧倒し続けて勝利。次の準々決勝から全てがシード校との対戦。去年ベスト8止まりだった私たちはここを絶対に突破したいと挑んだ大事な一戦でした。至学館を相手に前半から全員で攻め続け先制は安城学園。少し気が緩んでしまった隙に失点しましたが顔を下げずに挑み続け前半のうちに更に2ゴール。後半も1点を追加し、4-1の完勝。絶対に叶えたかった県四強が決まりました。続く準決勝は聖カピタニオ女子。前半からいつもの強さを見せてきたカピに対し、立ち上がりに弱さを見せてしまった私達は後半から立て直しましたが0-4で敗北。3年越しの連覇という夢は叶いませんでしたが気持ちを切り替えシード順決定戦に挑みました。相手はやはりシードの同朋。前後半攻め

続けた私達でしたがゴールネットを揺らせずスコアレスでホイッスル。突入したPK戦は残念ながら敗れました。今大会、県上位と真剣勝負を重ね、数多くの学びや修正点が見つかり本当に良い経験が出来ました。次年度の総体予選に向けてすぐに切り替え、日々の練習に取り組みます。

全日本マーチングコンテストで銅賞

3年7組 後藤 にか(犬山南部)

吹奏楽部は11月20日に大阪城ホールにて行われた全日本マーチングコンテストに出場し、銅賞を受賞しました。3年間の集大成となる全国の舞台上、仲間と協力し最高の演奏演技をすることが出来ました。結果は目標としていた「金賞」には届きませんでしたが、いつも支えて下さる保護者の方々や先生方、そして仲間のお陰で、最後まで全員でやりきることができました。これからも、全ての方への感謝の気持ちを忘れず、全力で活動していきます。3年生は定期演奏会をもって引退となりますが、今後も新体制となる安城学園吹奏楽部の応援をよろしく願います。



吹奏楽部

日本管楽合奏コンテスト全国大会で最優秀賞

3年3組 松下 葉那(竜海)



10月30日に森のホールにて行われた日本管楽合奏コンテスト全国大会で最優秀賞を受賞しました。コロナ禍で制限がある中、このような結果を得ることができ、とても嬉しく思います。人数が揃わず、練習がままならないこともありましたが、全員が揃い音楽ができたあの時の感動は今でも鮮明に覚えています。この仲間と最高の一夏を過ごせたことは一生の宝物です。たくさんの応援ありがとうございました。

合唱部

第29回ヴォーカル・アンサンブルコンテストで銀賞を受賞

2年2組 畑野 楓(雁が音)

私たちは1月14日に行われた第29回ヴォーカル・アンサンブルコンテストに2チーム出場し、両チーム銀賞を受賞しました。練習は感染症対策を徹底しながら行っていました。今年は、イタリア語の曲に挑戦したため、発音や歌詞解釈に苦労することもありました。ですが、日本語訳を読み、歌詞の情景を思い浮かべて練習することで、聞いている人に伝わる合唱を目指しました。本番では、練習の成果を発揮し、両チームとも楽しんで歌うことができました。このような結果が残せたのも、日々応援して下さる家族や先生方、友人のおかげです。これからの聞いてくださる人々の心に残るような合唱を目指して頑張ります。



報告

故関神一学校長とのお別れの会

昨年12月4日、享年65歳で急逝された関神一先生とのお別れの会が、1月20日に開催されました。



学校長代理挨拶

今日は、昨年12月4日、享年65歳で永眠された、故関神一先生を偲び、お別れの会を持つこととなりました。

関神一先生は昭和33年半田市で生まれました。半田高校卒業後、早稲田大学教育学部に進学し、卒業と同時に安城学園高等学校に奉職し41年間勤務されました。教科は社会科を担当、校務では生徒会主任、学年主任、学習指導部長を歴任し、2006年から10年間教頭を務めた後、2017年より6年間、学校長として安城学園の教育をリードしてきました。

安城学園高校は24年前の1999年にそれまでの女子校から男女共学に移行しました。関先生はその準備委員の中心メンバーとして、全国の学校を視察するなどし、女子校から共学校へのスムーズな移行に貢献されました。

クラブ活動では安城学園に勤務して以来、卓球部の顧問を務め、学生時代卓球の経験はありませんでしたが、指導方法を研究し、熱意ある指導で、それまで県内ではほとんど実績のなかった本校の卓球部を県内で、常に上位の成績を取められる強豪校に育て上げました。

2002年に初めて全日本卓球選手権大会に出場して以来、全国選抜大会に4回、インターハイには2回選手を導きました。また、その活躍は本校卓球部の指導だけに留まらず、高体連卓球専門部西三河支部長を6年間、愛知県卓球協会理事を10年間務めるなど、愛知県高校卓球界の重鎮としてその発展に貢献されました。

関先生の教員人生はまさに、安城学園の教育の充実と発展、そして高校卓球界の発展に尽力された41年間でした。

12月6日関先生の訃報を放送で報告した時にも話したのですが、生前、関先生が願っていたことは、授業、部活動、行事を通して皆さんが仲間を大切に、協力し合い、お互いを高め合うことができる高校生活を送って欲しいということでした。

安城学園は4年前から目指すべき学校の姿として「本気で挑戦、全力で応援する学校」というキャッチフレーズを使っています。これは関先生が4年前の生徒会長が語った言葉にヒントを得て作ったテーマです。

本校では毎年、全校生徒による生徒総会が開催され、そこでその年の生徒会長が執行部での議論を踏まえ「どんな学校にしたいか」を全校の前で発表しています。いわゆる所信表明です。ここ3年間はコロナの影響で放送を使っていたのですが、4年前は体育館に全校生徒が集まり実施されていました。その時の生徒会長だった黒木さんはその中で全校生徒に向かって次のように語りかけました。「安城学園は勉強、クラブ活動、自主活動、ボランティア活動など様々な活動に挑戦し頑張っている人がたくさんいる。そういう人たちの頑張りをお互い応援しあえる関係、お互いを認めあう関係を作ることによりよい学校になっていくのではないかと。今以上にそんな学校にしていこう。」という提案でした。

「生徒それぞれが挑戦する目標を持ち、それを全力で応援できる学校、お互いを認め合うことのできる学校」、これは生徒、教員など安城学園にかかわるすべての人のテーマです。

そして関先生が願っていた学校の姿です。「本気で挑戦、全力で応援する学校」みなさんには、ぜひ、関先生の思いを受け止め、充実した高校生活を送って欲しいと思います。

お別れのことば

関先生

これまで、私たち生徒のために本当にありがとうございました。関先生と突然の別れと言う話を聞いたとき、私は驚きと衝撃が隠せませんでした。

関先生は、よく私たちに向き合ってくれたと周りからも聞いています。私もそう感じています。学園祭で写真を一緒に撮ってくださったこと、入学式や始業式・終業式では、私たち生徒にこれは校長としての授業だとたくさんのメッセージをいただきました。先生の言葉は、きっと生徒一人ひとりに届いているはずですよ。

私は、生徒会役員として、1年前から大変お世話になり、生徒会の意見生徒の意見もたくさん取り入れていただきました。

先日、学校見学会の場で、中学生の皆さんに挨拶をするようになった時のことです。挨拶の原稿を教頭の畑中先生に見ていただき機会がありました。畑中先生の隣にいらした関先生はほそそと、これだけ長い文章を完璧に覚えて、みんなの前で言う事は本当に凄いことだ。そう言葉をかけて下さいました。

何気ない一言でしたが、私にとってはそれだけでもとても心が軽くなりました。私に寄り添ってくださった関先生の姿を今でも鮮明に覚えています。私も、生徒会長としてもっと全校生徒の声に耳を傾け、関先生みたいに、生徒一人ひとりに寄り添おう。そう思わせてくださった先生でした。

私は現在、生徒会長として全校生徒が過ごしやすく、充実した学校生活を送れるような取り組みについて役員全員で話し合っています。関先生に安心してもらえるような安城学園にしていきたいです。

これからもずっと見守り寄り添って下さい。
関先生、本当にありがとうございました。

2023年1月20日
生徒代表
安城学園高等学校
生徒会長 加藤由紀恵